

・盲腸炎

MODALITY

- 患部を強く圧迫する、痛みのあるほうを下にして横になる、涼しい外気、発汗、温かい飲物など
- 動き、触られること、寒さ、冷たい風、乾燥した気候、暑さ、締め切った暑い部屋、食べること、ドライフード、パン、冷たい飲物、午後9時頃、朝起床時など

RELATIONS

- ・ Complementary : Alumina, Rhus toxicodendron
- ・ Antidotes : Aconite, Chamomilla, China, Chlo-

rum aqua, Fragaria vesca, Nux vomica, Rhus toxicodendron

- ・ Antidoted by : Aconite, Alumina, Camphora, Chamomilla, Chel, Clem, Ignatia, Muriaticum acidum, Pulsatilla, Rhus toxicodendron, Senega, Ferrum met

●主なウリ科のレメディ

Cucurbitaceae (Cucumber) : Bryonia alba, Colocynthis, Cephalandra indica, Citrus vulgaris, Colocynthinum, Cucumis sativus, Cucurbita citrullus, Cucurbita melo, Cucurbita pepo, Elaterium officinarum, Luffa amara, Luffa actangula, Luffa bindal, Luffa operculata, Momordica balsamica, Momordica charantia, Momordica purgans, Trichosanthes dioica

Bufo rana ヨーロッパヒキガエルの毒 [知能発達の遅れ, リンパ節炎]

Rana bufo L.

Bufo bufo

BACK GROUND

Bufo bufoは、両生綱無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属のカエルです。本種は、ヨーロッパに棲息するもっともふつうのヒキガエルなので、学名もヒキガエルの中のヒキガエルということでBufo bufoとなっています。レッドデータブックには記載されていませんが、国によってはその数が激減しているので保護されてい



ます。一般名は、Common Toad, Brazilian toadなどと呼ばれています。昆虫などの小動物を主食にし、長い舌をのばして獲物を捕らえ、口の中に入れてしまいます。寿命は、30年くらいと言われています。体長

は、70～180mmです。雄は小さく、雌は大きくなります。地上棲で畑、林、草原など広く分布しています。皮膚は乾燥していて、いぼが多数あります。繁殖期は3月中旬で、水場集まり産卵をします。雌は一度に2,000個もの卵を産みます。繁殖期には、とくに雄の背中の色は黄色や緑色、茶色などに変わります。雄だけが、ケロケロと鳴き声を出します。また、他のカエルと比べて足がやや短めでジャンプ力も弱めですが、これは毒で身を守るからだと推測されています。

蛙の中では比較的大型になるBufoは、ブフォトキシシンという毒を耳の後ろにある耳腺や皮膚のいぼにもっていて、その毒は体全体を覆っています。ブフォトキシシンと呼ばれる毒の有効成分については、数種の成分が判明しており、その1つにブフォテニンと呼ばれるアミン系の毒があり、これは粘膜に接すると神経系統に作用する毒で、セロトニンを分泌促進し、幻覚作用があります。もう1つはブフォタリンというステロイド系の毒で、猛毒です。ブフォタリンは、口腔や粘膜に付着すると心筋に作用します。これらの毒は、少量であればジギタリスのような心臓の活動を活発にする効果や血圧上昇作用をもち、また、この2つの毒は、局部麻酔や鎮痛作用、止血効果もあるそうです。ほかには、エピネフリン、ノルエピネフリン、ブフォテニ

ジン、ビタミンC、グルタチオン、ステロールなどが含まれています。最近になって、強力に細菌や真菌、寄生虫などを抑える作用をするペプチドが、リンパ管循環を通して皮膚の表面に分泌されていることも判明しています。

これらの毒は、大型の捕食動物に背中から喰われることへの防御策となっているだけではなく、病原菌や寄生虫も殺す内服薬的な健康管理の役割も果たしています。いわゆるガマの油と言われるのは、このヒキガエルの毒のことですが、ガマの油で謳われている創傷薬としての効果は認められていません。漢方では、ヒキガエルから抽出する蟾酥（せんそ）という薬がありますが、これは強心剤として使われています。

Bufoの毒性についてのブルーピングには、さまざまな症状が報告されており、そのうち共通しているものは、頭の中が熱く感じられる、呼吸困難、痙攣などがあります。皮膚と皮下の炎症も起こします。

MATERIAL

ヨーロッパヒキガエルの毒液

FIRST PROVING

Hencke

MIND

Bufoタイプは、知能発達の遅れている子供や、年齢よりも早期に痴呆が始まるケースにとくに有用です。非常に精神的に鈍く、子供っぽく、知能発達が遅れていて、怒りっぽい面ももっています。相反する2つの気持ちをもっていることがあります（笑ったと思うと泣いたり、積極的になったり消極的になったりなど）。落ち着きありません。見知らぬ人に会うのは嫌いです。

カエルが餌を捕らえるのに舌を出しますが、このタイプも舌が口からはみ出していたり、唇をずっと舐めていたり、舌を鳴らして遊んだりすることがあります。そのためにてんかん発作中に舌を咬んでしまうことがあります。どることもあります。

性的なことには非常に関心があり、自慰するために1人になりたがります。外見は、やせ衰えたような感じで、汗をかきやすく脂ぎった顔をしています。寒がりですが、暖かい部屋にいると悪化します。

AFFINITY

Bufoは、主に神経系、脳、皮膚やリンパ系、心臓、腎臓、生殖器系（とくに卵巣）に親和性があります。

CLINICAL APPLICATIONS

■リンパ節炎

- ・とくに腕のリンパ節炎
- ・乳腺腫瘍：血液様の乳が出ます。

■てんかん：夜睡眠中に悪化する傾向があります。痙攣発作中に舌を咬むことがあります。

- ・新生児の授乳後の痙攣

■皮膚

- ・疱疹、湿疹、かゆみや炎症を伴う小膿疱
- ・爪周囲炎：しばしば爪を噛む癖があります。

■行動療法

- ・知能発達の遅れ
- ・性欲亢進、とくに自慰が激しい
- ・インポテンス
- ・反対感情両立：笑ったり、悲しんだり、攻撃性と引きこもり。人を恋しがったり、1人になりたがったり。
- ・自閉症
- ・多動症

MODALITY

- 冷水浴、足だけ温水浴、出血、冷氣
- ◀ 暖かい部屋、性的興奮、自慰、睡眠中、わずかな動きなど

RELATIONS

- ・Antidoted by：Lachesis, Senega
- ・Complementary：Salamandra, Helonias, Amphisbena